

教育長室からのお知らせ No.54(令和2年1月)

明けましておめでとうございます。2020(令和2年)年、「令和」で迎える最初の年明けとなりました。皆様におかれましては、希望にあふれる輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、2020年は子年。干支では「庚子」(かのえ・ね)となります。「子」は本来「孳」という字で、種子の中に新しい生命がきざし始める状態を指し、また「庚」は変化が生まれる状態を指すそうです。このことから、2020年は、新しいことにチャレンジする年にしようと、心新たな決意をした次第であります。

そこで、新たな年における教育を取り巻く現状についていくつかお話ししたいと思います。

中央教育審議会は、「主体的学び」「対話的学び」「深い学び」の三つの視点(授業改善の固有の視点)を示しました。「主体的学び」は言葉は違えども、今までの学習指導要領でも説かれ、実践されてきたものであります。今回の改訂は、その仕上げとも言われており、学習指導要領自体を「教える地図」から「学びの地図」と標榜するように、特に子どもの主体的な学びの実現を重視しています。「主体的な学び」の視点として、「学ぶことに興味関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を自ら振り返って次につなげる」と示されています。教職員には、今の時代を生き抜く子どもの資質・能力育成のため、日々、授業の質の向上と効果的な指導の実現に向けて研究し続け、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」への取り組みを引き続きお願いしたところであります。

さて、令和元年12月、埼玉県戸田市の小学校では、体育科のダンスの授業でパソコン上に表示される画像に合わせてダンスを創作する活動が公開されました。来年度からの小学校でのプログラミング教育の必修化を見据え、教科の中でプログラミング的思考を育てることを狙いとして、子ども達の興味関心を高める興味深い授業実践であり、授業のヒントとしても発想が広がることと思います。

また、全国特別支援学校肢体不自由教育校長会主催で開催された、「ミラコン 2019～未来を見通すコンテスト」では、代表に選ばれた生徒のプレゼンを、審査員のいる東京都の学校と全国の特別支援学校7校を遠隔システムでつなぎ、リアルタイムで中継しました。ICTの有効な活用方法として示唆に富む実践と言えるのではないのでしょうか。

最後に学校の働き方改革としては、地方公共団体の判断で、1年単位の変形労働時間制が適用できることになり、まだまだ熟考の余地のある制度ではありますが、休日のまとめ取り等、働き方に対する選択の幅が広がっていくことと思います。

結びとなりますが、教育においては時代に合った学びが必要であります。最も大事なことは、変わるものと変わらないもの、教育の「不易と流行」を見極め、人としてのあたたかさや知恵や感性を育てていくことだと思っています。新年にあたり、新たな希望と決意を皆様と共有し、市川の教育を進めてまいりたいと思います。